

# オレンジ TOPICS

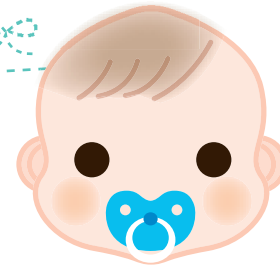
参考文献のご提供はお断りしておりますのでご了承下さい。

## 赤ちゃんのお薬の飲ませ方 No.2

### 粉ぐすり (細粒薬) (顆粒薬)

#### ※保管について

粉薬は直射日光に弱いので、風通しのよい陽の当たらないところに、乾燥剤を入れた缶や密封容器に入れて保管します。



粉薬(散剤)には、粉・細粒・顆粒などがあります。一般に苦いものが多く、乳幼児に飲ませるのはちょっと大変です。飲み物や食べ物に混ぜるなど、子供の成長に合わせて飲ませる工夫をしましょう！

※粉薬を小さな容器に出し、ごく少量の水やぬるま湯でペースト状に練ります。清潔な指の腹にとって、上あごや頬の内側に擦り付けます。そのあと、水やぬるま湯を飲ませます。

#### ※Point※

練ったからといって舌には乗せないように！舌は苦味を強く感じるため、頬の内側に擦り付けましょう。味覚を鈍らせるため、冷たいシャーベットと一緒に飲ませるのもおすすめです。

※食べ物に混ぜて飲ませます。甘いものや冷たいものが飲ませやすいようです。ただし、量は子供の食べられる量にしましょう。また、薬によっては混ぜると苦味が増すものもあるため、何と混ぜたらよいか、事前に薬剤師に確認しておきましょう。

#### ※Point※

おかゆやうどんなど、栄養価が高く主食になる食べ物に混ぜるのはNG。薬の味のせいで混ぜた食べ物が嫌いになると困るからです。

### シロップ

#### ※保管について

変質しやすいので、冷蔵庫で保管。投与期間を過ぎたものは捨てましょう。ジュースと間違えて飲んでしまわないよう十分な注意を！

オレンジやいちご、あるいはヨーグルトなど、子供の好む色や香り、味に工夫されているシロップ剤。赤ちゃんに最も飲ませやすい形です。何日分かまとめてボトルに入れてあります。

※有効成分がボトルの底にたまっていることがあります。服用直前にボトルをゆっくり振って薬の成分を均一にし、子供に合った方法で飲ませます。

#### スプーンで



正確に量った量をスプーンに入れ、スープを飲ませる時の要領で飲ませます。吐き出してしまうこともあるので、スプーンは心もち奥に入れ、ゴクンと飲ませるようにしましょう。

#### スポイトで



正確に量った量をスポイトで吸い上げ、赤ちゃんの頬の内側に流し込みます。のどを突かないように注意！使用したスポイトやカップは、細菌が繁殖する可能性があるため、必ずよく洗い乾燥させます。

#### 哺乳瓶の乳首で



空の哺乳瓶の乳首を吸わせておいて、その後量ったシロップを入れてあげるとスムーズに飲めるようです。時間がかかって嫌がるようなら乳首の穴を少し大きくしてあげましょう。

#### 小さめのコップで



少し大きくなった子なら、小さめのコップなどにシロップ剤をうつしてそのまま飲ませましょう。甘みを嫌がって飲みたがらない子には、飲み残さない程度の水で薄めてあげてもO.Kです。

### Q&A

#### もし薬を吐いてしまったら？

服用してすぐに吐いてしまった場合や、明らかに薬が出てしまった場合は、もう一度飲ませても良いでしょう。ただし、吐いたあとは30分ほど休憩してから飲ませましょう。服用して30分以上経ってから嘔吐した場合は、薬が吸収されていると考えて再投与しない方が良いでしょう。

#### 薬を咳き込んで吐いた時は？

咳が出ているお子さんは、咳をすることによって腹筋が胃を圧迫するため、吐きやすい状態になっています。嘔吐を予防するためには、なるべく空腹時に服用すると良いでしょう。また、お薬の種類が多い場合は何回かに分けて飲ませてください。

## 大人の食物アレルギーについて

乳幼児の食物アレルギーは適切な対応で自然に症状が治まっていくこともありますが、大人の食物アレルギーは治りにくく、生涯にわたって続くこともあります。それだけに、原因物質の特定と対応が大切になります。前月は離乳期から学童期の食物アレルギーについて取り上げましたが、今回は大人の食物アレルギーの特殊型についてお伝えします。

### 口腔アレルギー症候群

食物アレルギーの特殊型で、比較的成人に多くみられます。生の果物、野菜、ナッツなどが原因で、食べてすぐに唇や口の中が腫れたり、イガイガしたりします。まれにショック症状を起こすこともあり、注意が必要です。

原因食物として多いのは、キウイ、バナナ、モモ、メロン、パイナップルの果物や、セロリ、トマトなどの野菜と報告されています。

花粉症やラテックス(※)に対するアレルギーのある人におこりやすい傾向があります。



※ラテックスとは、ゴムの木の樹液のことで、天然ゴムの原料となります。ゴム風船やゴム手袋などに使用されています。

参考：財団法人 日本アレルギー協会ホームページ

食事に関するご相談を当薬局の栄養士が承っております。どうぞお気軽にお声かけください。